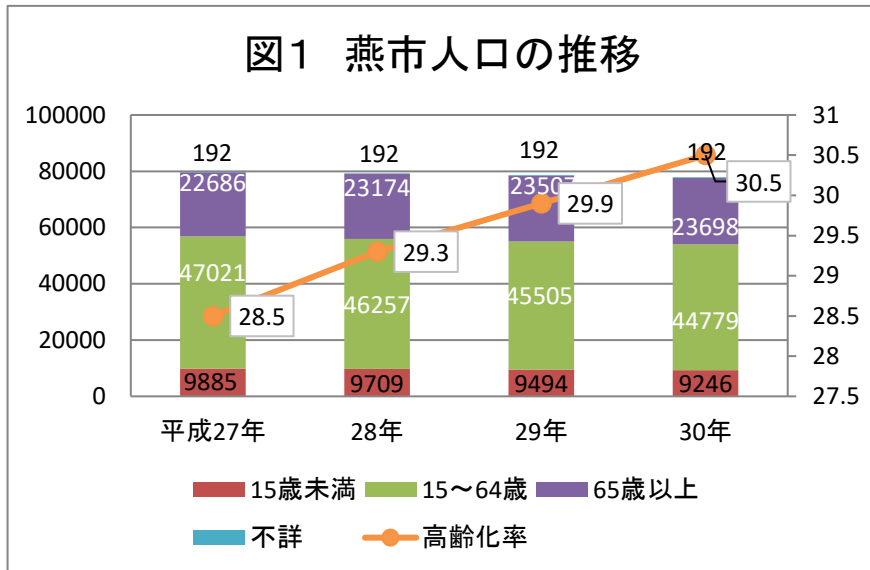


燕市の健康を取りまく概況

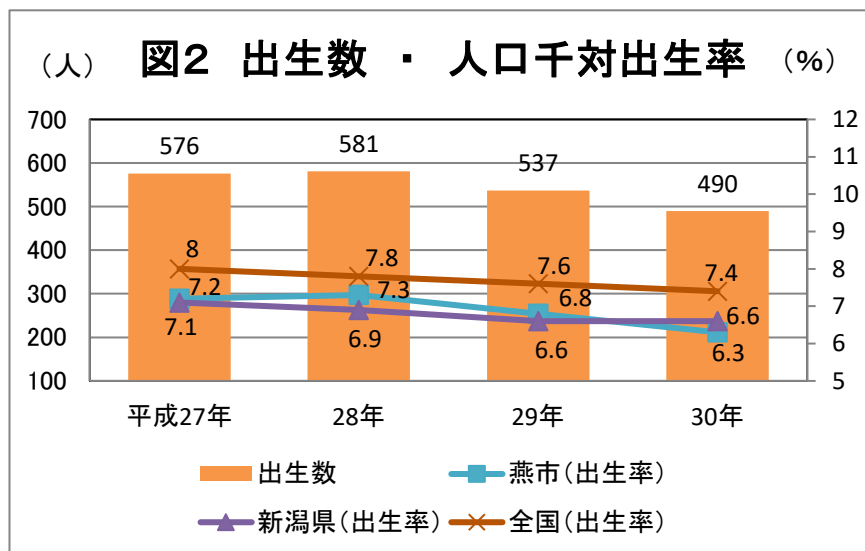
(1)人口構成（第3次燕市健康増進計画 P7 図1比較）



資料：新潟県「福祉保健年報」

総人口は年々減少しており、燕市の総人口は77,915人となっている。特に15歳未満の人口は、計画作成時の平成27年の9,885人から平成30年は9,246人と600人以上減少しており、高齢化率は上昇の一途をたどっている。

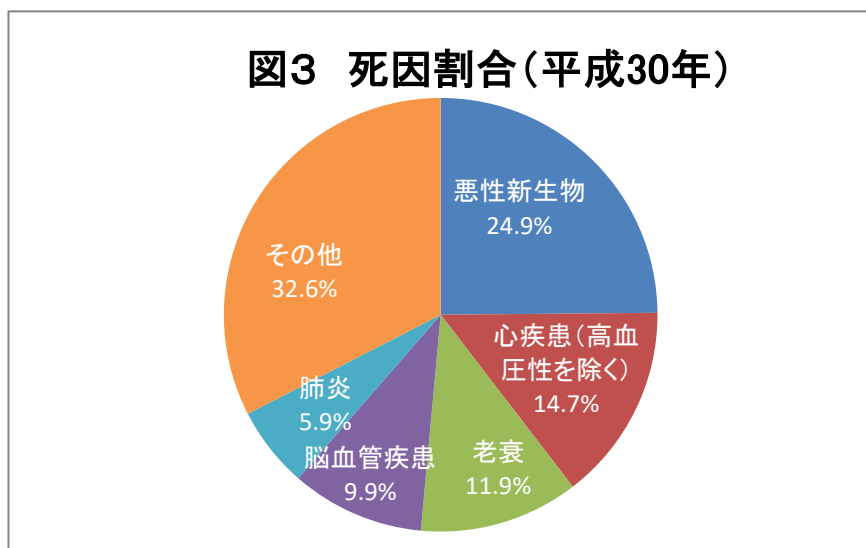
(2)出生（第3次燕市健康増進計画 P9 図4比較）



資料：新潟県「母子保健の現況」

出生数は、平成28年に少し上向きかけたが、年々減少しており、平成30年は500人を下回った。
出生率も、今までは県より上回っていたが、平成30年は県よりも低い現状にある。

(3) 主要死因（第3次燕市健康増進計画 P10 図6比較）



資料：新潟県「福祉保健年報」

燕市の主要死因の順位は、平成27年 第1位悪性新生物、第2位心疾患、第3位脳血管疾患、第4位老衰となっていた。しかし、平成30年は、老衰のほうが脳血管疾患よりも割合が高くなっている。

(4) 介護保険状況（第3次燕市健康増進計画 P13 表2比較）

表1 要介護(要支援)認定者有病状況(令和元年度累計)

	燕市	新潟県	全国
脳疾患	32.5%	26.8%	24.0%
糖尿病	26.8%	21.7%	23.0%
心臓病	60.1%	59.1%	58.7%
高血圧症	53.4%	52.0%	51.7%
脂質異常症	32.6%	28.2%	30.1%
がん	10.5%	10.2%	11.0%
筋・骨格	48.5%	50.0%	51.6%
精神疾患	40.1%	39.7%	36.4%
(再掲)認知症	26.9%	26.0%	23.6%
アルツハイマー病	22.8%	21.2%	18.5%

資料：KDB(国保データベース)地域の全体像の把握状況

平成28年度と比較して、他の疾病は割合が減少していないが、県・国と比較して割合が高かった脳疾患と糖尿病は、燕市としては割合は減少している。しかし、県・国と比較すると割合の差は縮まってはいない。

(5) 国民健康保険医療費の状況（第3次燕市健康増進計画 P14 図12比較）

図4 H30年度合計費用額(燕市)

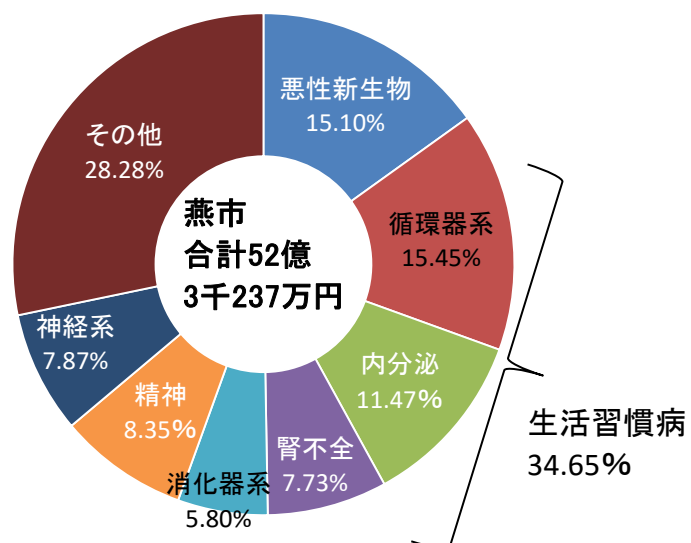
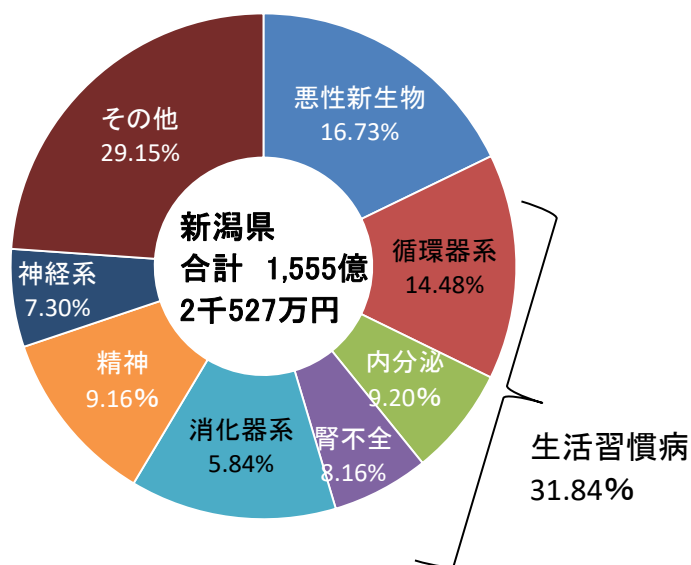


図5 H30年度合計費用額(新潟県)

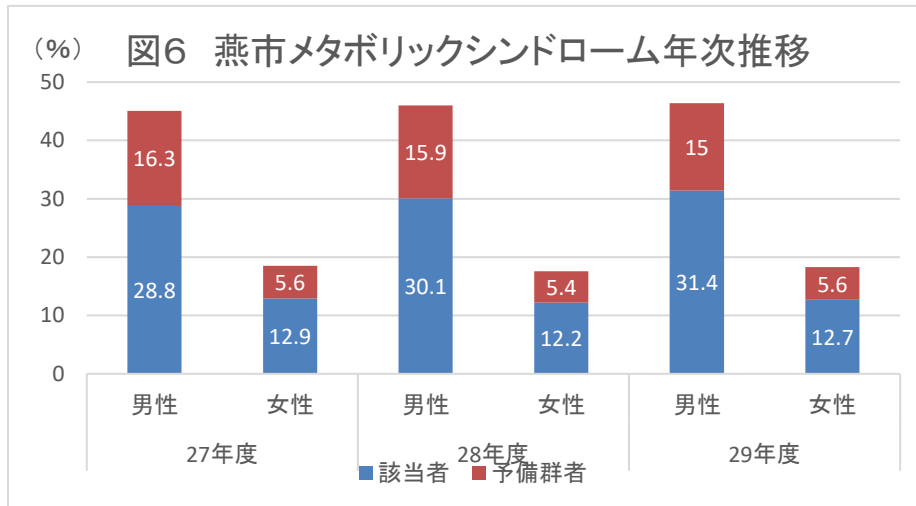


資料:KDBデータを使った疾病分類別(大・中分類)統計(国保)

平成30年度とは費用の集計方法が異なっているため、計画作成時の平成27年度の燕市・県とは単純に比較はできない。

平成30年度の県と比較すると、主な生活習慣病である「循環器系の疾患」「内分泌、栄養及び代謝」「腎不全」が燕市では34.65%を占めており、県の31.84%を依然上回っている。

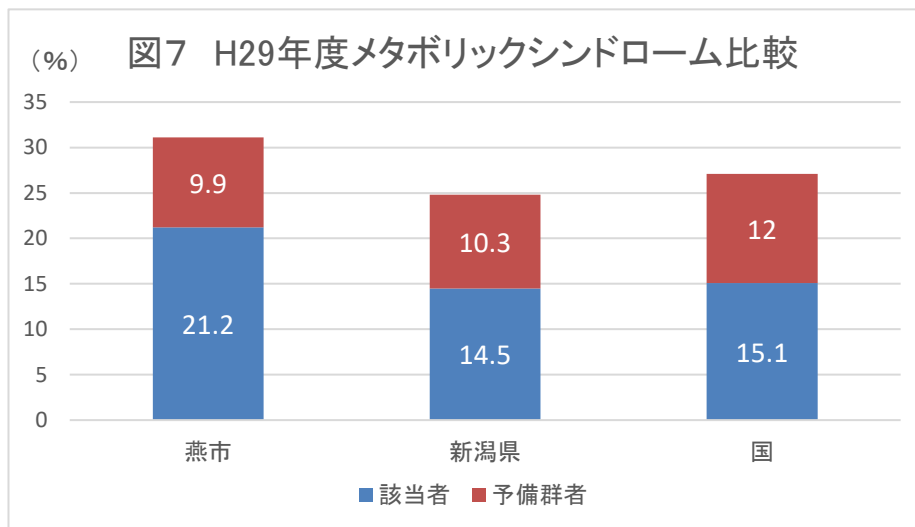
(6)メタボリックシンドローム年次推移（第3次燕市健康増進計画 P20 図19・図20比較）



資料：特定健診・特定保健指導実施結果総括表（法定報告）

平成27年度と比較すると、女性はほぼ横ばいである。男性はメタボリックシンドローム予備軍は減少しているが、該当者の率が増えてきており、全体の割合も増加傾向にある。

(7)メタボリックシンドローム比較（第3次燕市健康増進計画 P36図60・図61参考）



資料：法定報告より算出（燕市）
厚労省HP「特定健康診査・特定保健指導に関するデータ」（県・国）

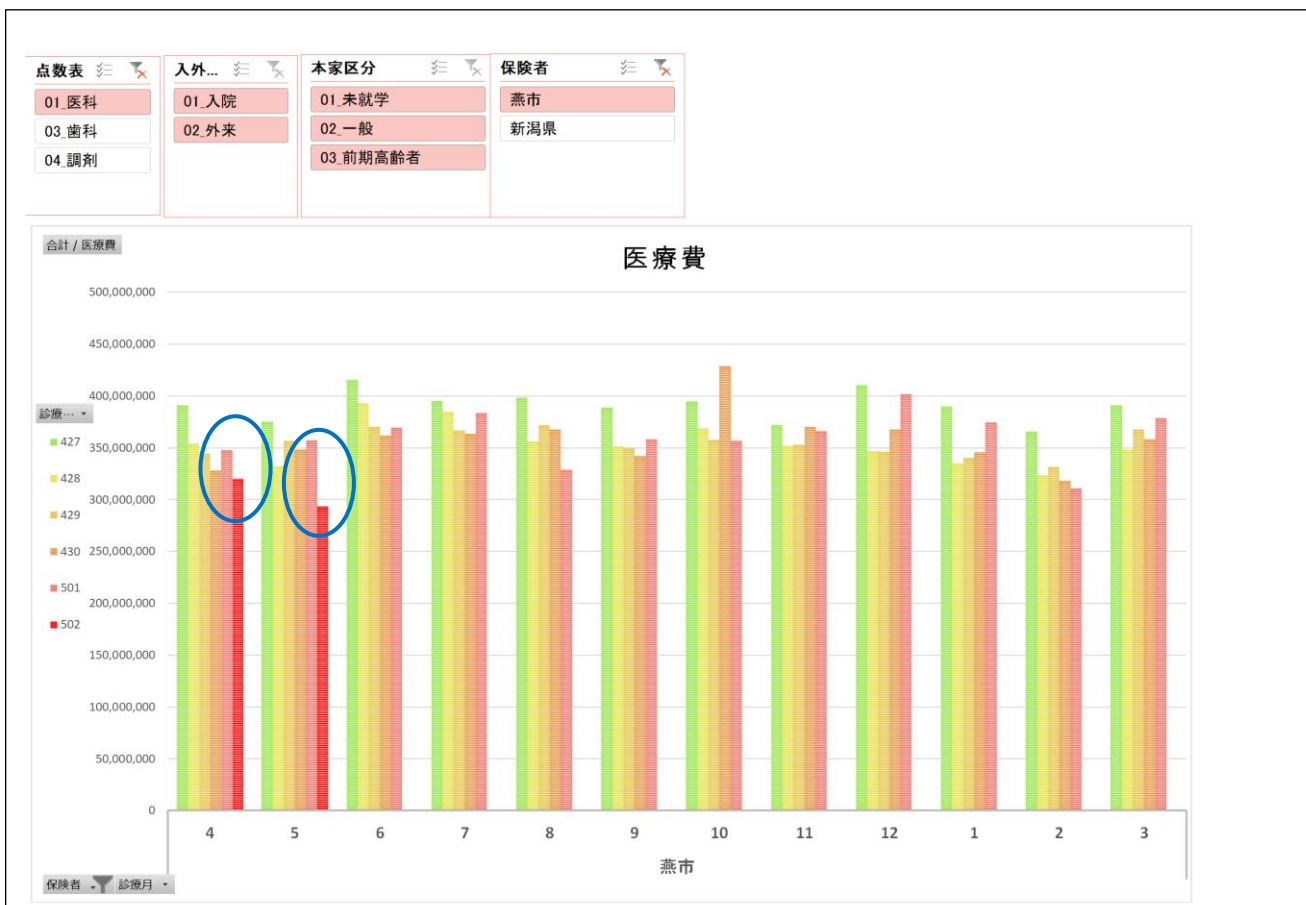
平成27年度と比較すると、県や国よりも割合が高い現状は変わらない。

今後もメタボリックシンドローム該当者を減少させるためにも、今後も、市民自ら生活改善に取り組めるよう支援を継続していく必要がある。

① 全体



② 医科



③ 歯科



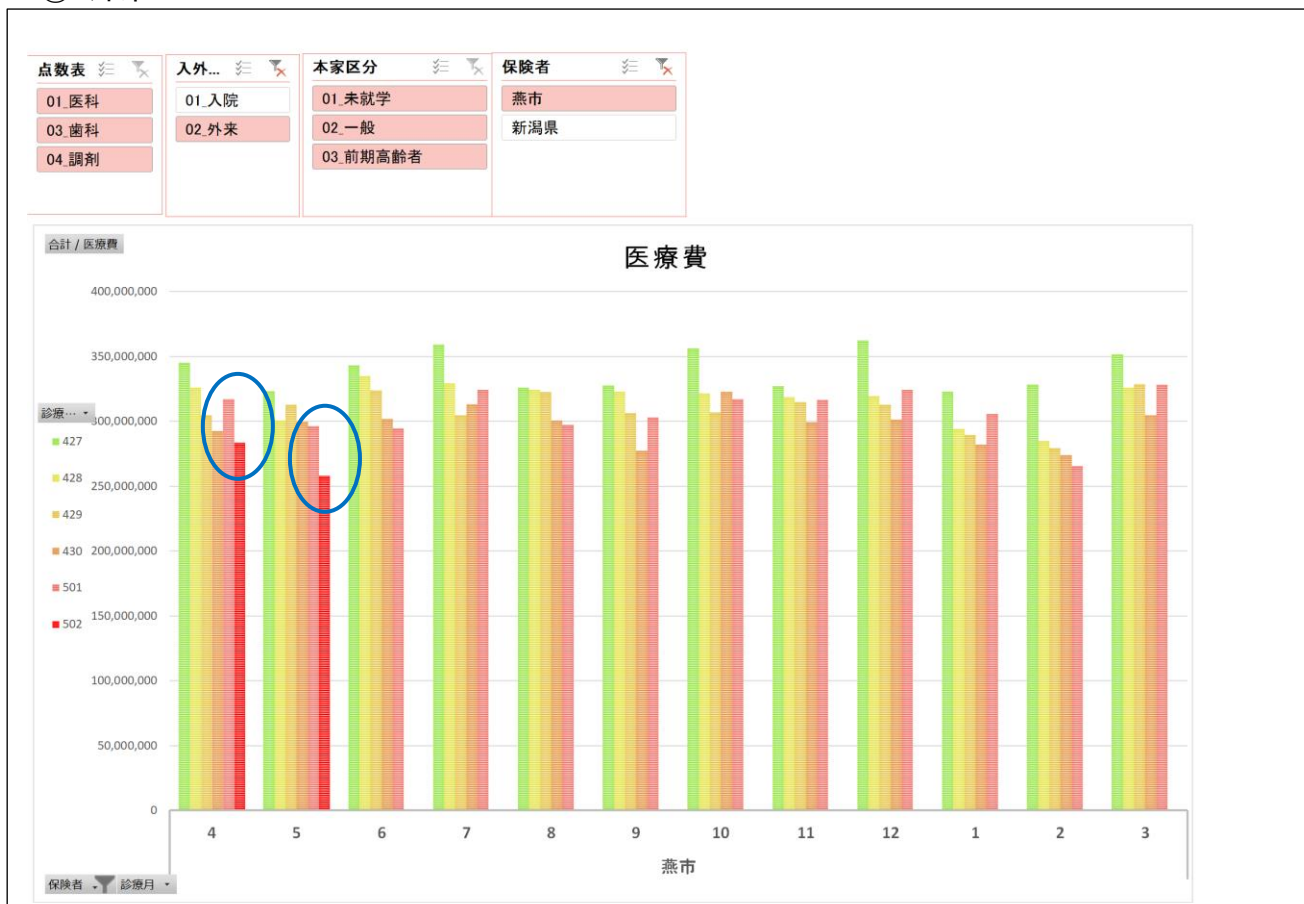
④ 調剤



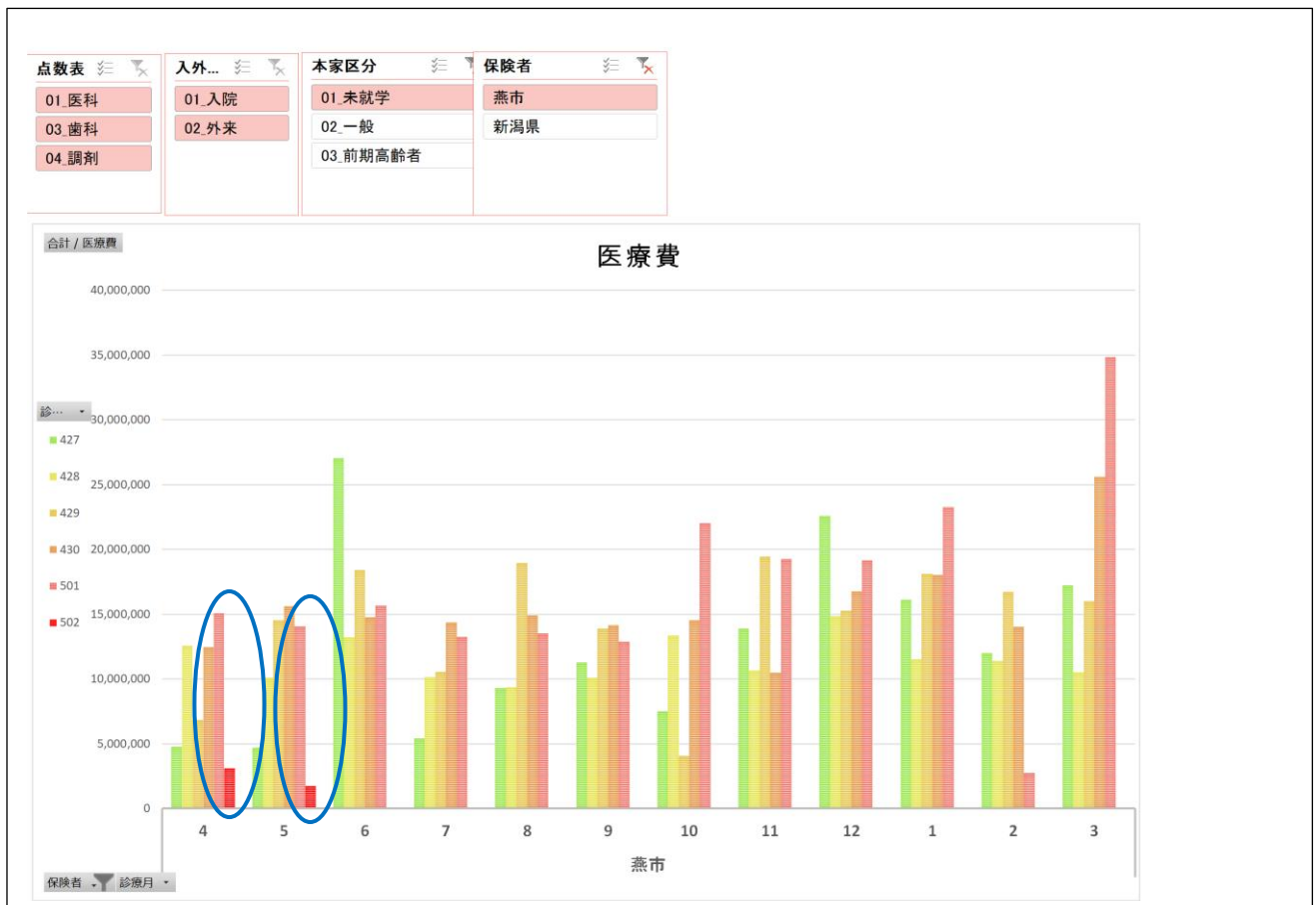
⑤ 入院



⑥ 外来



⑦ 未就学児



⑧ 前期高齢者

